

## 「学校関係者評価委員会」の開催について

本校においては、教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでまいったところですが、2013年度からは、卒業生を含め本校に関係の深い業界団体、関係企業の方々を中心に「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させております。

2023度の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、2023年6月初旬に対面およびオンライン参加によるハイブリッド型会議として開催いたしました。

今後とも、学校関係者評価委員会の運営に対してご理解並びにご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2023年 6月  
学校法人Y I C学院  
Y I C京都ペット総合専門学校  
校長 村田 忠男

## YIC 京都ペット総合専門学校 学校関係者評価委員会議事録

会議名	2023 年度第 1 回学校関係者評価委員会
日時	2023 年 6 月 7 日 (水) 13:30~15:00
場所	YIC 京都ペット総合専門学校 2 号館 5 階 257 教室
参加委員	<p>公益社団法人京都市獣医師会：森様                  株式会社ひごペットフレンドリー：植田様（オンライン）                  一般社団法人ジャパンケネルクラブ：西藤様</p> <p>事務局：村田校長、飛田副校長、山根管理部長、澤学生支援課長、五郎畑教務課長、井田学科長、北村学科長</p> <p>オブザーバー：細田参与、鳥井（内部監査・IR 戦略室）</p> <p>欠席：益社団法人滋賀県獣医師会：石田様、株式会社 Lovely：塚本様、ダクタリ動物病院京都医療センター：丸山様</p>
議長	石田様
記録者	内部監査・IR 戦略室：佐藤
配布資料	本日の次第、委員名簿、学校関係者評価委員会議題、2022 年度の自己点検評価結果および第三者評価委員会評価結果、教育課程（オンラインの皆様には ZOOM で共有）
<b>進行</b>	
1) 校長挨拶	<p>ご多忙の折、本日はお集まりいただきありがとうございます。平素より大変お世話になっており、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。</p> <p>本校の最近の状況からご報告いたします。新型コロナウイルスへの対応についてはこの 5 月 8 日の 5 類相当への移行から、ほぼ 1 か月が過ぎ、学校においては、職員、学生も、同じぐらいの数で罹患者が出ており、マスクが外せないといった状況であり、全般的に、集団生活において、マスクの着用は義務づけてはおりませんが、感染対策に、十分留意してほしいというスタンスは続けておるところでございます。</p> <p>去年から今年にかけて大きな出来事としては、昨年 9 月、京都府知事より愛玩動物看護士の指定養成機関の認定をいただきました。獣医師会の先生方にも、臨床実習を行う実習施設の関係で、たいへんお世話になりありがとうございます。</p> <p>この春はじめて実施された国家試験はこの春の動物看護科の卒業生を対象に実施され、本校におきましては、152 名中、受験者 152 名、うち 132 名の合格ということで、全国平均合格率 88.9%にくらべ 86.8%といった結果になっております。ただ、今年の卒業生、41 名中 12 名が不合格になっており、新卒生のみ合格率としては 70.7%と非常に、かなり低い数字となった。次回に向けては、こういった結果を招かないよう、3 年生の以降の関係で、来年の試験については不合格者のみが対象となり、新卒生は 2 年後になりますが、とにかく今回の結果を反省して、次のステップに向けて頑張っていきたい。専門学校の最近の情報については専門学校を運営している学校法人の関係で私立大学のガバナンス改革の議論が進みまして、4 月末には改正の私立学校法が成立しております。学校法人の形が変わることになります。2025 年度からは理事会をけん制する機能をより評議委員会とか監事の機能を高めるという方向で法案が、成立しております。もう一つ、専門学校におきましては、文部科学省において職業実践専門課程の充実という方向が、強く打ち出されております。それに伴い専門課程の認定要件の 1 つに、この学校関係者評価委員会も入っておりまして、この委員会の役割も非常に重要なものとなっております。学校関係者評価の結果を踏まえて教育活動や学校運営の改善につなげていくことが重要であり、学校関係者評価の実施を基本としつつ、職業実践専門課程のさらなる充実のため、専門学校の特性を踏まえた職業教育における第三者評価の仕組みも参考にした検討が必要である。こういったことが、昨年出された職業実践専門課程の充実という中に記載がございます。こういったことを受けて、文部科学省の事業でございました、第三者評価について試行的ですが受けてみました。自己点検評価は基本的には似たような形ですが、少し違ったところも出ております。色々改革途上でございますので我々としても、色々と研究、勉強しながらですね、学校法人また、専門学校の充実の方向に向けて努力してまいりたいと思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いたします。</p> <p>本日もいろいろ議論いただき学校運営に活かしていきたいので多くのお意見をいただき、誠実に対処して参りたい。</p>
2) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
3) 教職員紹介	各教職員挨拶
3) 定員数確認および委員長の選出	学校評価委員会規程第 7 条に基づき、6 名中、3 名全員で参加で本委員会は成立する。（柴山委員は遅れて参加された）、委員長は学校関係者評価委員より推薦するところ、新たな評価方法やオンライン開催の為、代理として山根が務める
4) 配布資料等確認	委員会名簿、議案、自己点検評価結果

5) 議事

1. 2022 年度の自己点検評価結果について

資料「2022 年度 YIC 京都ペット総合専門学校自己点検評価結果」に基づき以下の項目の報告および取り組み状況と課題・改善策について大村より説明された。

- ① 1. 教育理念・目標
- ② 2. 学校運営
- ③ 3. 教育活動
- ④ 4. 学習成果
- ⑤ 5. 学生支援
- ⑥ 6. 教育環境
- ⑦ 7. 学生の受入れ募集
- ⑧ 8. 教育の内部保証システム
- ⑨ 9. 財務
- ⑩ 10. 社会貢献・地域貢献
- ⑪ 11. 国際交流

2022 年度自己点検評価結果及び第三者評価委員会評価結果についてご報告します。

資料については自己点検評価結果と第三者評価委員会評価結果を紐付けて一覧にしています。非常に多岐に渡りますので、議論すべき項目をピックアップして主に今回の第三者評価委員会評価結果の不適合の項目について課題としてご覧いただき、課題の取り組みについてご意見をいただきたく、よろしく申し上げます。

2. 2023 年度の課題と重点項目について

評価項目	項目	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-5	課題：1-5 の評価を 3 とした。1-5 において、オリエンテーションの資料では本校の教育特色の記載がない。として、エビデンスとして学生便覧を上げているが、どのタイミングで周知するのかは検討する必要があるが、教育特色に関する説明を追加する。本年度は昨年の課題であった DP 等については卒業時にどのような資格を有し卒業させるかなど学生便覧を新たに作り直すなど行った。改善方策：学生便覧に記載しているが、どのタイミングで周知するのかは検討する必要があるが、教育特色に関する説明を追加する。とした。特に DP で卒業時の資格要件が 3 校共通ということもあり、明確でないことを見直し学生便覧を見直しする。学校の特色については入学時にはなく、今後は加えて改善を図りたい。
2. 学校運営	2-7 2-8 2-9	2-7,2-8 専任教員の講義・実習負担は妥当であるか、2-9 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているかにおいては、毎年 4 月に講師懇談会を開催しているが十分とは言えない。講義・授業負担の妥当性を測るためのエビデンスが時間割だけでは十分ではない。として評価を下げた。妥当な時間数をかを判断するための資料（持ちコマ数一覧等）を作成する。改善方策：教員のスキルアップを含めた研修の機会や対話の機会が作れていないとしてこれらを必要とした。今後は、授業参観や勉強会・研修会等を企画する必要がある。E-learning・オンライン・対面での研修会を企画する。とし、教務課長、学科長含めさまざまな課題を認識している。懇談会、研修の機会を設け、スキルアップを含めて対話の機会を設ける。
2. 学校運営	2-10	業界や地域社会等からの意見の収集・分析・応答の仕組ができていないか（苦情及び要請への対応を含む）について動物看護科のみでしか求める人物像のアンケートを実施していない。ペット総合科にて実施可能か総合支援課と協議してすすめる。
3. 教育活動	3-1 3-2	課題：3-1 と 3-2、についてコロナ禍の影響により当初の到達レベルに達していない、自宅学習時間が確保できていない状況がある。学習習慣の見直しのため、自宅学習の機会を与えるとともに、当初の到達レベルを達成するためにも各科目における自宅学習課題を検討する。 3-5、3-12、3-14、3-15 の評価を 3 とした。また、3-17 動物看護師資格にもっとも重要なインターンシップについて、依頼先の獣医師等と十分なコミュニケーションをとり、その内容、評価法などを事前に決めているかについては 4 としているが、動物看護師資格に最も重要なインターンシップについて十分とは言えない。 3-8 のシラバスなどできているが、ペットも看護もシラバスはあってもコマシラバスの作成が不十分。 3-1、3-2 学習習慣の見直しについて、新入生に対して昨年 10 月には募集が終了しているので、学校に入学するまでに学習課題に取り組むや、基礎学力を維持するなど入学後の実力テストの評価なども踏まえ、学生指導の勉強会などを行いながら指導している。秋に行う委員会でその取り組みを報告したい。
3. 教育活動	3-5	3-5 学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているかについて入学前学習を実施しているが、授業開始前に学力・スキルの把握ができていない。入学前研修の際に学力テストを実施する等、現在の入学前学習も含めて運用を検討する。

3. 教育活動	3-8 3-12	3-8 講義および実習に関するシラバスは作成されているか(学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか)、3-12 シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか(あるいはホームページなどで公開されているか)について、コマシラバスの作成が不十分とした。まずは教員自身が受け持つ科目内でコマシラバスの作成を進めていく。
4. 学習成果	4-5 4-11	4-5、4-11において企業と連携した卒業生の動向を十分把握できていない。と評価し、卒業生について回答可能な企業へのアンケートを Career map 等を用いて実施する。 卒業生の動向調査はキャリアで行っているが、卒業生全員を対象として実施できていない。 4-11 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているかについては特定の企業だけで就職先へ訪問などができていない。回答可能な企業へのアンケートをキャリアマップの機能で実施する。
5. 学生支援	5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか(またそれはきちんと学生や保護者に周知されているか)→学生自身が進路を切り拓く力を身につけることが課題。意味がわからない。
5. 学生支援	5-2	学生相談に関する体制は整備されているか(相談窓口が設置されているか)→学生相談のハードルが高いことが課題。担任教員が間に入ることでハードルを低くすることを試みる。
5. 学生支援	5-5 5-9	5-5 卒業生への卒後教育等の支援体制はあるか、5-6 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか、5-9 授業についてこれられない学生に対して、リメディアル教育や他コースの紹介などの支援策を実施しているか 5-5 卒業生の支援体制についてペット総合科では実施されていない。また、試験対策等を動物看護科にて実施しているがエビデンスが存在しない。 5-9 授業についてこれられない学生の対応について周知徹底不足である。また、学生個人の支援実績効果に関するエビデンスが存在しない。取組の再周知を徹底する。また、支援実績に関しては記録を作成する。今後は国家資格対策を講じていく。
5. 学生支援	5-12	5-12 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているかについて新型コロナウイルスの影響により中止が続いている。代替案、他の受け入れ場所を検討することが課題、新型コロナウイルスの影響が継続した場合は「別の受け入れ先を探す」、「代替案を検討する」といった対策を検討する。
6. 教育活動	6-5	6-5 施設・備品の環境整備 Wi-Fi のインフラ整備を 5G を含め検討、ICT の取り組みもコロナでより具体的に実行することとなった。オンデマンドや双方向型に取り組んだが、学生のインフラなども課題となった。
6. 教育活動	6-6	学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。について教務に関する備品等の在庫管理を強化する必要がある。実習室等の整理整頓を進め、動物看護科、ペット総合科ともに実習器具等一覧を作成する。 →備品管理簿はないのか
6. 教育活動	6-10	学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか→学外に関しては新型コロナウイルスの影響により中止となるケースもある。
7. 学生の受入れ募集	7-3	7-3 においてペット総合科の選抜方法が求める人物像を選抜するには十分ではない。 7-3 ペット総合科の選抜方法の見直しを実施する。
8. 教育の内部保証システム	8-1、 8-2、 8-3	8-1 学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか 、8-2 適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容やカリキュラムを評価しているかまたその評価方法、手段、スケジュールはどのようであるか)、8-3 教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているかについて 課題：8-1、8-2、8-3 においては授業アンケート項目・実施頻度、授業参観の実施は十分とはいえない。QU など利用しているが改善策の検証が十分とはいえない。 改善方法等が不十分。授業改善後の改善状況を報告し、改善状況の進捗を確認する。

2. 2023年度の課題と重点項目についての取り組みへの意見等		
評価項目	項目番号	ご意見(委員)
4. 学習成果	4-1	<p>課題：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか(卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後も就職その他の支援を行っているか) 自己点検評価結果は3、第三者評価委員会評価結果：適合ではあるが、卒業生の動向を把握して社会的な活躍をきちんと把握して今後の指導に有効活用できているかという少し心もとないところもある。</p> <p>→他校の状況把握などの情報を伺いたい。(把握すべき項目と企業とのつながりについて)</p> <p>○卒業生の就職後の動向をどのように調査し把握するか</p> <p>○在籍状況のほかに掴んでおきたい情報</p> <p>○卒業生の動向結果を今後の学校運営・就職指導にどのように活かしていくべきか</p> <p>○退職前に学校に相談するシステムの構築方法・支援の在り方</p> <p>○ドッグトレーナーコース卒業生の就職先について、今後の展望はどのようになるか</p>
4. 学習成果	4-1	<p>森</p> <p>国家資格化したことでこれから評価されることになる。受け入れ側としては見学される学生さんが10倍くらいに増えた。今までの学生とは意識が全然違う本人、学校に対する期待など今後は学校がどれだけ本気で教育するかが問われてくる。卒業生にしても国家資格を持っていても情報は入れていかないといけない。給料が上がる分、期待されることになるので今後はその動向が重要。卒業してできることが増えるようアップグレードしていかないといけない。従来、アシスタントとして採用していた人材もいたが、今後は本人の意識レベルから動物看護師として明らかに変わってくる。</p>
4. 学習成果	4-1	<p>植田</p> <p>卒業生の動向とかについてということなんですけども、先ほどのご意見にあった合同企業説明会とかでの情報収集とかはすごくいいと単純に思った。双方、そこまで工数も下がらないのかと思うので、そういうことであれば、積極的に私たちも協力していきたいとお伺いして思いました。他校での卒業生の方向追跡とかに関しては、結構、大阪や京都の学校とかともお付き合いをさせていただいてるが、そこまで、卒業生の動向追跡っていうのは行ってないイメージはあります。ただ、もう本当に長く付き合いしている大阪の学校からの出身で、かなり、弊社の中でも上位のポジションにいる社員がいるんですけれども、その、情報すら行ってなかったっていうのもあった。</p> <p>現状のこと yic さんからは、すごくたくさん、主にトリマーの学生さんを採用させていただいている中、弊社でも長く続けていらっしゃるスタッフさんが居られて、今、新卒の入社してからの動向調査とかっていうのも、私の方でまとめたりはしてるんですけれども、結構な確率で、弊社の中で、部門長(店長の一つ手前)という役職があるんですけれども、そういったポジションに就いているスタッフが多いイメージはありました。なので、かなり活躍されているスタッフが多い印象。</p> <p>離職についてはトリマーと販売スタッフを比べるとトリマーは長く続けておられる印象があるが、所感では販売は少し高いように思われる。しかしながら、YIC 京都の卒業生で販売スタッフで入職されて長く続けて現職で部門長として活躍されておられる方もおられる。</p>
1.	2-1	<p>2 教育の特色(社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いていますか)</p> <p>2-1 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか(コース修了後に、学習者がそのコンピテンスのレベルを必要とする目的や状況が明確にされているか)について、</p> <p>ペットアドバイザーコースは、他の2コースに比べると、ちょっと、やはり、専門性が低いという指摘があった。動物介在福祉学やアニマルセラピーなどの新しい学びもはじまっているが、プロとして求められるスキルについて(ペットアドバイザーコースで育成すべき人材像について)</p> <p>植田</p> <p>アドバイザーコースの総合的についていうところ、弊社で求める、スキルであったりとか、知識であったりとか、そういった経験値であったりとかっていう部分に関しては、そこまで専門的についていうのはあまり求めていないということはあるかもしれないですね。学校の中とかで、本当に総合的に見れるのであれば、たくさんいろんな経験をしてもらって、ご自身が1番、なんていうんですかね、向き合えるっていうか、マッチ度が高い、あの動物の種類などそういったのを見つけてもらって、弊社でも好きを仕事にさせていただくといった環境作ってるので、より入社してからマッチ度を高めるっていうか、そういった意味では、現状のままでいいのかなと思います。</p> <p>採用においてはコミュニケーション能力については非常に重視しているので、昨年行った講座のように接客スキルについて見ているところはある。</p> <p>YIC 京都の卒業生についてはたくさん応募していただくや活躍されている社員もいるので不満はないが、インターンシップについてもたくさんお越しいただいているので今後も積極的にエントリーしていただければよい。</p>



2. 2. 第三者評価の審査結果からの課題

③非常勤講師との情報交換について。

【評価項目】 2-4-41

「教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか」

⇒ 不適合（エビデンスなし）

○常勤職員と非常勤教員の情報交換のシステムについて

○実務家教員との連携の在り方について

④著作権について

【評価項目】 3-2-64

「教員・講師及び学習者に対して、印刷教材・電子教材の複写及び利用に関する規則について情報提供しているか」

⇒ 不適合

○教職員で共有・周知すべきルールや情報はどのようなものか

○教員や学習者に周知徹底するための方法

評価項目	項目番号	ご意見（委員）
2. 学校運営	4-41	<p>2-4-41：教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているかについて</p> <p>西鉢 情報共有についての課題、それはありますね。非常勤の方とコミュニケーションは取れてるのかもしいませんが、ミーティングとかするのとか聞いた時にそれはないということを知っている。非常勤の方も、外部から来られている人がいると思うので、教えることに対してちょっとばらつきはあるなという感じることがある。</p> <p>だから、ミーティングという風に言ってるんですけど、非常勤の方でも時間内にそれが終わればですけど、それ以外の時間を潰してやりたくないというのが、正直なところじゃないかなとは思っています。</p> <p>時間内に、教員が勉強する場、教師を教えられないと、やっぱり生徒も育っていかないと、その人その人の考えを生徒に行っても、この先生にはこう言われたけど、この先生もって言われたってやっぱり違いも出てくるので、この辺はなんか共有しないと生徒が悩むんじゃないかなと思います。</p> <p>そういう、先生が勉強することが重要。</p> <p>私が生徒に指導している内容をしっかり聞いて、それを聞いた先生が他の先生方としっかりと共有して指導に活かしてほしい。指導した内容はもちろん次年度の指導にも活かしてほしい。毎年、同じことを同じように指導することがある。先生方が共有して伝えておくべきことをキチンと踏まえて2年前期間に生徒へ工夫の仕方や扱い方など同じ目線で指導をしてもらいたい。（後期までに備えるスキルやレベルが明確でない）</p>
2. 学校運営	4-41	<p>植田 授業に際して常勤、逆に常勤講師の方とほぼ関わりがなかったと思います。</p> <p>内容については事前の打ち合わせもなく、内容についても、テーマについて、メールでやりとりぐらいだったとは思っています。</p>
2. 学校運営	4-41	<p>森 非常勤としてとある学校に何年か行ったことありますけど、常勤なんか一切考えてないですよ。来てその時間から時間で働いて帰れや。そこの常勤は何にも学校のことなんて考えてないです。で学校のことを考えるのであれば、非常勤の人間にそういうとこまで教え込まないといけないのではなないか。そういう人は考える必要もないわけで、やっぱり常勤でしていること、非常勤と情報交換しないと。お題が決まっても、授業のお題目は決まったって、同じようなことやってる科目がありますよね。で学校が最低限どんだけのことを教えるっていうのを明示しないと非常勤なんか好きなこと話してしまうと思う。だから、先ほどの植田さんの授業でも、打ち合わせ全然やってない、当然ですけど社員喋れませんから。</p> <p>先ほどの植田さんの企業の講義、動物看護科でも犬、猫、小動物、魚、鳥が好きという学生は看護科の学生でもいるはず、知識は必要だが、生徒さんに聞いてもなにも知らない。</p> <p>動物看護科にもエキゾチックアニマルが好きな学生もいるのでごペットさんの授業を選択するやコースで学べるようにすると、YIC 京都ではマニアックなことが学べるから学生が集まるというようになるのではないかな。</p>

2. 2. 第三者評価の審査結果からの課題

④著作権について

【評価項目】 3-2-64

「教員・講師及び学習者に対して、印刷教材・電子教材の複写及び利用に関する規則について情報提供しているか」

⇒ 不適合

○教職員で共有・周知すべきルールや情報はどのようなものか

○教員や学習者に周知徹底するための方法

3-2-64 教員・講師及び学習者に対して、印刷教材・電子教材の複写及び利用に関する規則について情報提供しているかについて非常勤講師との情報交換会の際に著作権の取り扱いとして問題集のコピーなど絶対にしてはいけないことをいくつか事例を基に発信していたが、十分に周知徹底や学内の規則ルールがないとして自己点検で不適合としていた。

評価項目	項目番号	ご意見 (委員)
3 教育活動	2-64	森 病院内でキャンペーンをする際のポスターやチラシに使う写真や論文で病状について自分のクライアントを患者さんに頼んで、それ取らしてもらえば、出す撮影（お客様の許可を得る）ぐらい。
3 教育活動	2-64	植田 弊社の入社の研修では、もちろん著作権のこととか取り組んでいるが、やっぱり入社時の研修なので、薄れていくこともあり、結構その辺を管轄している部署からも言葉厳しめでよくやってくれているので、だいぶよくなっている。取り組んでいる内容としても、会社とかで多いものが動物たちの写真とかCAとなると店舗内の犬、猫の写真になるが、エキゾチック系の、ハ虫類関係となるとホームページ、他社さんとかもとか、ネットの画像取ってきたりとかっていうのがごく希にあたりする。そのあたりは社内のチェックするところは、すぐ見つけて訂正するという風になっています。結構、本当に厳しくやっているのがフリーイラストとかもネットとかであると思います。その辺も、どこまでフリーなのかっていうのが、実際明確化されていなかったり、商用利用がされてるかされてないかとかまで、しっかりわからないところもあるので、弊社ではイラスト使う場合は、特定のサイトを会社で契約しているところがあり、そのイラストは使っていいですよとして、著作権侵害に当たらないように、様々手をうっている次第です。チェックする部署が基本システムとか触っている部署にはなってくるんですが、そこが社内でも結構ご意見番的などところで、それぞれの部署とかが、やっぱり、そこから注意されないようになっていうので、会社が今のところ、著作権侵害に対して意識が相当高い状態になっているので、各自、各上長とかは、ちゃんとチェックして、最悪見つけられたなどはあったりはします。

⑤動物看護師における ICT 活用の必要性

AI等の進歩が目まぐるしい中、社会ではICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)は必須となっています。動物看護師も例外ではないと考えられます。本校ではGoogleが無料提供しているスプレッドシート(データを共有された者全員がリアルタイムで編集できるExcel)やAIチャットの利用について説明していますが、実際の現場で活用するチャンスがあるのか、活用するような場面があるのなら、どのようなスキルを強化すべきかを議論したいと考えております。

評価項目	項目番号	ご意見 (委員)	回答 (事務局)
6.教育環境		森 今までの手書きの看護記録や薬の注文、キャンペーンのポスター作りなどパソコンのスキルがあるのはよい。 電子カルテは海外のユーザックシステムを使わざるを得ない。健康診断の情報など利用できる。	
6.教育環境		西躰 あまり詳しくない、情報検索や記録程度の利用	
学習成果	4-11	植田 弊社のトリミングサロンでも電子カルテの導入の話はある。スプレッドシートやAiチャットそれよりはexcelの基礎知識、使い方とか、先ほどの著作権とかに繋がってくるAiチャットの利用よりかは、情報リテラシーの部分を学校教育とかで、やってもらえた方がいいのではと思う。若い方はスマートフォンの1つで、物心ついて、初めてスマホを持った段階から、インターネットに繋がっているから、情報の良し悪しが全くわからないってところから、始めている。個人個人でも、例えば、twitterとかでも、本人のアカウントだけじゃなくて、サブアカウント、複数アカウントを持っている人がそれで、会社の悪口、お客様の愚痴であったり	チャット、gptとかは何か制限されたりしていますか。

	<p>とか、お客さんの愚痴であつたりとかっていうのが過去に事例もあつた。学校教育とかで、リテラシーを高めて、会社としてはすぐにわかっちゃうので、バシっちゃうのでそのようなことがないようにしていただけたら。使い方とかは、若い世代の方は、本当にちょっと教えたらできる方がほとんどなので、どっちかっていうと、リテラシーの部分の方が重要かと思います。</p> <p>弊社は全然、そのチャット系は特に制限はしてないですし、あの会社からどうこうって話も一切出てないんですが、大前提として、基本的にフリーソフトとかを使わない、入れないっていう風に、決まってる、おそらくむやみやたらに使うスタッフがなくて、多分1番使ってるのは元々、出身が情報系の私ぐらい。</p> <p>ChatGPT は行むで活用している。Excel で、関数入力とか、数式とか、ちょっとレベルが高い数式、vpa などのプログラム、ai でチャットのようにして、こういうことがやりたいと vpa のコード書いてって言ったら、ぱって出てくる。昨日もフォルダー3 個か4 個か、2 秒ぐらいで終わったので、楽だなと思っています。</p>	
<p>⑥入学選考の見直しについて（アドミッションポリシーに基づくスキルや協調性や計画性、コミュニケーション能力といった数値で測りにくい非認知能力について）</p>		
<p>学習成果</p>	<p>4-11</p> <p>植田 コミュニケーション能力ですね。本来であればやっぱりグループディスカッションがいいと考えている。今年はコロナでディスカッション選考でできてなくて、求める色々質問項目が増えすぎて、時間枠を取れなくなってしまって、可能であれば、ディスカッションすれば、コミュニケーション能力の良し悪しとか、集団生活でどういった動き強いのかとか、言い方悪いですが、人と変わった行動しないかとかが見えてくるかなと思う。どんなテーマでもいいのかなと思います。</p> <p>評価についてはグループスカッションで、多分検索とか色々してもらったら、リーダーを取るべきだみたいは、なんか役割分担みたいなのがあると思うんですが、やっぱり積極的に動いていける人で、ただ、積極的に動いていける人でもやっぱりついてくるかどうかとか、周りへの意見を聞ける体制なのかどうなのかなとか、そういったのも見させてもらったりとかしています。悪い例では、リーダー選んで1人で突っ走って行って、他の人は置いてけぼり、でも全く喋れなくて、みたいなパターンであれば、積極性は評価するかもしれないけど、特に協調性はないっていうのもわかる。逆にメンバーとしてディスカッションに参加していても、発言も一切なく、板書とかできる状態であっても、板書もせず協力もないで、ただ、見てだけみたいな感じだったら、集团的には、ちょっとダメだよなっていうのも、評価できる。</p> <p>いい意味でも、悪い意味でも、集団生活で、本当に上位層を狙っていくのであれば、本当に、リーダーポジションでしっかり周りを巻き込んでいけると。ある程度のポジションとかであれば、リーダーまでは行かなくても、しっかりメンバーとして意見出しもできるし、意見出ない人とかにフォローとかも入れれるよっていう</p>	<p>参考にさせていただきます。</p>



		のは、合格ラインと評価できるポイントと考える。	
3. 2022 年度の取り組みへの報告等			
資格取得・就職実績の報告			
取得資格については昨年度の実績と対比できるようにまとめた。愛玩動物看護師について今年がベースとなる。次年度以降結果に注視していく。就職実績についてはコース別の就職状況を別紙にて報告。			
学習成果	4-11	西躰 JKCのトリマーC級100%となっている点について以前聞いたところ受けたくても受けられなかったや受けなくてよいというように、受かる方だけ受験させるのではなく、希望者は試験を受けさせて100%を目指すというようでは。さらに上級資格を目指す方が出てくればよい。卒業したら（トリマーC級を取得したら）終わりみたいな様子。過去に卒業後にB級取得した方を1名知っているが、それ以上目指せる方を育てるようにする。	事前選考の評価方法について改めて検討します。
6) 総評			
村田 PDCAは学校としてやグループの方針としてあるが、IR室が分析するもの共有して、経営陣にも報告してそれ元に判断していくというようなIR的な価値観入れていく。グループ全体の方針でもあるがそこがまだ上手く可動していない。今後改善したい			
7) 今後の予定			
今後の予定、年1回の会議はこれで終了となる。皆様からいただいたご意見に対する回答や、何か特別な案件や会議の招集が必要な場合も改めてご連絡いたします。よろしく願います。（山根）			

以上